Press Release

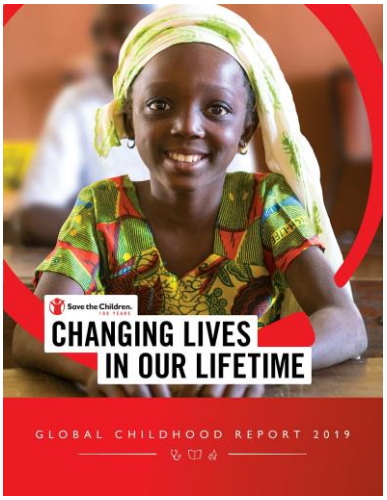
報道関係者各位

Save the Children

情報解禁日(日本時間):2019年5月29日午前3時00分

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

国際 NGO セーブ・ザ・チルドレン 報告書『子どもたちの人生に変化をもたらすために』を発表 2 億 8 千万人の子ども時代が改善—20 年間の取り組みの成果



セーブ・ザ・チルドレンは、6 月 1 日の国際子どもの日に合わせて、最新の世界子どもレポート『*子どもたちの人生に変化をもたらすために(Changing Lives in Our Lifetime)*[1]』を発表し、20 年前と比較して、少なくとも 2 億 8,000 万人の子どもたちが、より健康的で、安心・安全に成長し、そして、教育の機会を得られていることを明らかにしました。

このレポートでは、日本を含む世界 176 ヶ国を対象にした「子ども時代が守られている国ランキング(End of Childhood Index)」も発表しており、2000 年と比較して、176 ヶ国中 173 ヶ国で子どもを取り巻く状況が改善されるなど、この 20 年間で、世界は強い政治的リーダーシップや社会的投資、国連ミレニアム開発目標(Millennium Development Goals:MDGs)の成果により、子ども時代を守ることにおいて目覚ましい進捗を遂げていることが明らかにされています。

たとえば、レポートで示されている子ども時代を奪う 8 つの指標をもとにした分析では、2000 年には、9 億 7,000 万人の子どもたちが子ども時代を奪われていたことが分かります。しかし、現在では、その人数は 6 億 9,000 万人まで減少しており、このことから、20 年前と比較して、現在では、少なくとも 2 億 8,000 万人の子どもたちが、より良い状態で生活ができていると考えられます[2]。2000 年の数値と比較して、子どもたちの状況に改善があった指標は以下のとおりです。

- 5 歳未満で死亡する子どもは年間 440 万人減少
- 発育阻害の子どもは 4,900 万人減少
- 学校に通う子どもは 1 億 3,000 万人増加
- 児童労働に従事する子どもは 9,400 万人減少
- 児童婚または強制的に結婚させられる少女は 1,100 万人減少
- 10 代で出産する少女は年間 300 万人減少
- 殺害される子どもは年間 1 万 2,000 人減少

8 つの指標の中で、唯一、悪化している数値は、紛争により避難を強いられた子どもたちの数です。2000 年と比較して、さらに 3,050 万人の子どもたちが避難を余儀なくされており、これは 2000 年の数値よりも 8 割増加しています。

■子ども時代が守られている国ランキング

「子ども時代が守られている国ランキング」は、1)死亡、2)栄養不良、3)教育を受けられないこと、4)児童労働、5)早すぎる結婚、6)早すぎる出産、7)激しい暴力の被害を、子ども時代を奪う 7 つの要因と設定し、①5 歳未満児の死亡率、②発育阻害の子どもの割合、③初等教育・中等教育を受けていない子どもの割合、④児童労働に従事する子どもの割合、⑤結婚している少女の割合、⑥少女による出産率、⑦紛争により家を追われた子どもの割合、⑧子どもの殺人被害率、の 8 つの指標をもとに、176 ヶ国を対象に作成しました[3]。

結果は、176 ヶ国中、シンガポールが最も子どもが守られている国のトップとなり、2 位はスウェーデン、3 位から 5 位はフィンランド、ノルウェー、スロベニア、6 位から 9 位はドイツ、アイルランド、イタリア、韓国、10 位ベルギーという結果で、10 ヶ国中 8 ヶ国をヨーロッパの国々が占めました。一方、最下位は、中央アフリカ共和国で、下位の 10 ヶ国中 8 ヶ国が西アフリカと中部アフリカ地域の国々でした。日本は、フランス、リトアニアと同位の 19 位という結果で、この順位は、昨年(2018 年)と変動なしとなっています[4]。

トップ5	
1	シンガポール
2	スウェーデン
3	フィンランド
3	ノルウェー
3	スロベニア

・・・	
17	イスラエル
17	ルクセンブルク
19	フランス
19	日本
19	リトアニア

ワースト5	
172	南スーダン
173	マリ
174	チャド
175	ニジェール
176	中央アフリカ共和国

■子ども時代が守られている国／数値が改善された国ランキング

さらに、2000 年の数値との比較で見ると、子どもたちが置かれた状況が最も劇的に改善している国は、シエラレオネであることが分かりました。また、2 位から 5 位は、ルワンダ、エチオピア、ニジェール、ブルキナファソという結果になっています[5]。

トップ10 －数値が改善された国ランキング			
1	シエラレオネ	6	アンゴラ
2	ルワンダ	7	ギニアビサウ
3	エチオピア	8	ザンビア
4	ニジェール	9	東ティモール
5	ブルキナファソ	10	ブータン

シエラレオネやルワンダ、エチオピア、ニジェールをはじめとする過去 20 年間で最も子どもたちの状況が改善した国々では、以下に示す通り、経済的な繁栄のみを優先するのではなく、政治的選択によって、子どもたちを取り巻く環境に変革をもたらしています。

- 1994 年に起こった虐殺から 25 年が経ったルワンダでは、子ども時代を終わらせる指標のほとんどの数値が改善している。5 歳までに死亡する子どもの人数は、79%減少し、多くの子どもたちが学校に通い、18 歳未満で結婚する子どもも減少。さらに、2000 年以降、児童労働や早すぎる出産、子どもの殺人被害率も半減している。
- シエラレオネは、故郷から避難を強いられる人の数を、99%減らした。2000 年には、5 人に 1 人が避難を余儀なくされていたが、現在では、700 人に 1 人となっている。
- エチオピアでは、10 代で出産する少女は 41%減少し、発育阻害の子どもは 33%減少。子どもの殺人被害率についても 30%減少し、子どもの死亡や学校に通っていない子ども、児童婚を強いられる子どもは半減している。
- 相対的にみて、ニジェールは、子どもたちの状況に最も改善があった国と言える。この 20 年で、各指標が示す数値は 2 倍以上改善しており、5 歳の誕生日を迎える前に死亡する子どもの割合は 62%減少している。 ニジェールの現状は、子どもたちにとって、まだ十分なものではないが、ここ数年にわたり継続して改善していることから、ニジェールに暮らす多くの子どもたちの未来は、今よりもより良い状態になっていると考えられる。

セーブ・ザ・チルドレン・インターナショナル事務局長ヘレ・トーニング＝シュミットは、次の通り述べます。

「100 年前、第一次世界大戦後に、セーブ・ザ・チルドレンの創設者であるエグランタイン・ジェブは、ジュネーブ子どもの権利宣言を起草しました。 現代の子どもたちは、かつてないほど健康で、豊かな生活を送り、そして、より良い教育を

受けています。科学技術の進歩や社会の発展は著しい一方で、数百万人もの子どもたちが子ども時代を奪われ続けています。 私たちは今、子どもを誰一人取り残すことなく、すべての子どもたちの子ども時代が保障されるように声を上げ続け、取り組みを継続する必要があります。

あらゆる国の政府は、すべての子どもたちが人生で最高のスタートが切れるように、子どもたちのために、これまで以上にできることがあり、それら取り組みを進めていかなくてはなりません。 すべての子どもが安心・安全で、健康的、かつ幸せな子ども時代を過ごすことができるように、さらなる社会への投資と、より子どもたちに焦点を当てたさまざまな施策を進めていく必要があります」

■日本の子どもの子ども時代

日本は、子ども時代が守られている国ランキングで、世界 176 ヶ国中 19 位にランクしています。子ども時代を奪う 8 つの指標において、日本のスコアは、上位の国々とわずかな差しかなく、日本の子どもたちの子ども時代は守られていると言えます。しかし、日本を含むランキングの上位の国々でも、子どもたちを取り巻く環境に、課題がないわけではありません。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン事務局長の千賀邦夫は、以下の通り述べます。
「今から 100 年前、セーブ・ザ・チルドレン創設者のエグランタイン・ジェブは、世界で初めて、子どもは満足のいく生活を送る権利を持ち、それを子どもに与える義務を持つのは政府や家族、大人たちであると訴えました。そして、30 年前の 1989 年には、国連で子どもの権利条約が採択されました。現在、私たちは、『子どもの権利』が実現された世界に暮らしているでしょうか。

日本では、ランキングの下位の国々のように、紛争下の国に暮らす子どもたちや、経済の発展が世界の先進的な水準に達していない国に暮らす子どもたちと同じような形態で、子どもたちの子ども時代が奪われているわけではありません。しかし、今年 2 月に国連子どもの権利委員会から日本政府に出された『第 4 回・第 5 回統合定期報告書に関する総括所見』[6]や、私たちが国内で取り組んでいる子どもの貧困、子ども虐待の予防といった支援事業を通しても明らかなとおり、日本国内にも子どもを取り巻く環境に多くの課題があり、子どもの権利が保障された社会とは言い切れません。

創設当時から、セーブ・ザ・チルドレンは、子どもの権利を守る活動の最前線に立ち続けています。これからも、私たちは、子どもたちを取り巻くさまざまな課題に対して、一時的な支援ではなく、その根本的な解決を目指し、国や自治体、地域社会と連携しながら、子どもたちとともに、すべての子どもの権利が保障された社会となるよう活動を続けていきます」

[1] レポート概要(日本語) http://www.savechildren.or.jp/scjcms/dat/img/blog/2952/1558500091291.pdf
ランキング含むレポート全文(英語) http://www.savechildren.or.jp/scjcms/dat/img/blog/2952/1558500313393.pdf

[2] 分析手法については、報告書 pp.54-58 参照。

[3]入手可能な 2005 年以降のデータをもとに、世界 186 ヶ国の状況を分析し、そのうち、子どもの殺人率のデータが無く、かつ、残り 7 つの指標のうち 2 つの指標に関するデータがない国を除く 176 ヶ国でランキングを作成。176 ヶ国すべてのランキングは、報告書 p.49 参照。186 ヶ国の分析結果および、分析手法については、報告書 pp.50-58 参照。

[4]日本は、2017 年は 16 位、2018 年は 19 位にランク。2017 年と 2018 年の報告書はこちら 2017 年 2018 年

[5]2000 年の数値との比較に基づくランキングは、報告書 pp.47-48 参照。

[6]]子どもの権利委員会 第4回・第5回統合定期報告書に関する総括所見では、「緊急の措置」が必要な分野として、差別の禁止、子どもの意見の尊重、体罰、家庭環境を奪われた子ども、リプロダクティブヘルスおよび精神保健、少年司法の 6 分野があげられている。
https://www.nichibenren.or.jp/activity/international/library/human_rights/child_report-1st.html

【備考】

- 現在、3,100 万人近くの子どもたちが自宅からの避難を強いられている。紛争地域には、1995 年の数値の 2 倍以上に当たる 4 億 2,000 万人の子どもたちが生活している。紛争下の国々では、子どもの死亡率が最も高く、多くの発育阻害の子どもたちがおり、学校に通えない子どもたちの割合が増加している。児童婚と児童労働の割合も上昇している。詳細は、レポート p.35-39 参照。
- 2000 年には、推定 9 億 7,000 万人の子どもたちが、子ども時代を終わらせる 7 つの要因によって子ども時代が奪われていたが、現在その人数は 6 億 9,000 万人まで減少している。しかし、この子ども時代が奪われた子どもたち 6 億 9,000 万人の 5 人に 1 人の子どもが死亡しており、残り 5 億 4,500 万人の子どもたちは、生存しているが子ども時代を奪われている。世界の 18 歳未満の子どもの人口は 23 億人であり、5 億 4,500 万人はこの人口の 24%にあたる。つまり、およそ 4 人に 1 人の 18 歳未満の子どもが子ども時代を奪われていることを意味している。一連の分析の基準年は、2017 年であり、本レポートの調査手法の詳細は p.54-58 参照。

＜セーブ・ザ・チルドレンとは＞

セーブ・ザ・チルドレンは、すべての子どもにとって、生きる、育つ、守られる、参加する、「子どもの権利」が実現されている世界を目指して活動する子ども支援の国際 NGO です。1919 年に英国で設立され、現在、日本を含む 29 の国と地域の独立したメンバーが連携し、約 120 ヶ国で子ども支援活動を展開しています。

【本件に関する報道関係者からのお問合せ先】
公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン　広報　太田
TEL: 03-6859-0011 E-mail: japan.press@savethechildren.org